



# 森のなかま

2010年 4月号

NO. 24 (継続169)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功  
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

## ～ 総会・全国植樹祭に向けて～

理事長 島岡 功

平成22年4月1日

日ごろは会活動に、ご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

平成22年度の、総会に向けて、平成21年度の活動結果を評価し、又、**全国植樹祭と全国林業後継者大会**への対応について、会員の皆様に、お願いしたいと思います。

平成21年度は、NPO移行2年目として、皆様のご協力により、さまざまな成果を上げてきたと思います。主な成果としては、次のように考えています。

かながわトラストみどり財団との関係については、公社時代のように、気兼ねなく意見や提案を、聞いていただき、ご意見を頂戴する関係がつけられ、太いパイプが出来つつあると思います。又、このことにより、県関係機関の方々との関係も深くなり、会事業の広がりにつながることを、期待しています。

連絡事務所の設置は、県森連、林業協会と関係の皆さまに、親しくお付き合いをさせていただき、対外的信用向上と会員の積極的利用で、その役目を、果たす方向が確認できたと思います。

委託事業の取り込みについて、成長の森巡視事業の広がり、新たに、樹名板設置事業等受託し、本来の普及啓発活動を、おろそかにすることなく遂行し、会運営に寄与したと、考えています。

部会活動の充実について、各部活動においては、分野別の特徴を生かし、企画の内容が豊かになり、NPO団体活動としての認識が深まり、部会活動の充実が図られてきたと、考えています。これは、外部を含めた参加者の増加を得、事業の成功につながり、会の社会的貢献度の向上に、大きく寄与するものと、考えています。

渉外活動の推進については、会としての活動が、拡大できる環境が整いつつあり、事業企画委員会等の、関係機関及び団体への訪問による、意見交換や情報収集のための、渉外活動が、今まで以上に、進められたと思います。21年度は、以上の様な成果などで、会員の皆様への、活動の場を、充分提供できたと、評価したいと思います。

今年度は、**県の大きなイベント、第61回全国植樹祭及び第39回全国林業後継者大会**が、開催されます。私たちの会は、県及び関係機関に全面的に協力し、盛り上げなければなりません。この度のイベントは、私たち神奈川県森林インストラクターが、誕生当初から、およそ20年間にわたり、県民の方々への、普及啓発活動を、実践してきた経験と皆様個々の多様なスキル、又、会としての組織力を生かし、育ててくれた県、関係機関への恩返しのお機会と、とらえたいと思います。

会員の皆さまの、全面的なご協力を期待しています。

## 21世紀の森林づくりに 新たな息吹きを(1) 柏倉 紘 全国植樹祭担当理事

ここに折にふれて目を通してある冊子がある。

「**かながわ森林プラン**」である。

この書籍の緒言には「豊かな森林を守り育てていくことは、いま私たちが築くことのできる21世紀への文化遺産です。」とし、プラン作成のねらいを「県民一人ひとりの生活に欠かせないかけがえのない“生命の資源”であり、日常生活において私たち人間が共生すべき貴重な森林を保全する必要がある」として述べている。そのためには、森林の整備や管理を森林所有者の努力にくわえて、県民共有の財産として県民と行政が一体となって進めることの大切さに言及した「**かながわ森林プラン**」である。

この視点にたち、作成年の1994年から21世紀最初の10年までを“21世紀に継承する森林の基礎づくりの期間”にとらえた2010年までのプランである。この推進に当たっては、「県民が一体となって森林づくりを進めること」を主要方策の一つにしている。

これによれば、「活力と魅力あふれる多彩な神奈川の森林づくり」をめざし、その実践の核として県民が一体となった森林づくり(いわゆる森林づくりボランティア活動)が欠かせないとしている。そして、この目標を達成するための具体的な手法として、3つの方向性(森林の保全・都市林業の創造・森林との交流)を示し、地域の特性に応じた3つのゾーン(生活保全森林ゾーン:平地林、資源活用森林ゾーン:山地林、生態保存森林ゾーン:山岳林)に区分した展開を明示している。

いうならば、「祖先からの授かりものであり、後世の人々からの預かりものである貴重な森林」を、(保全と創造)(総合利用)(ふれあい)などの点で調和のとれた保全と利用を図りながら、活動と魅力あふれる多彩な森林として21世紀に継承するための森林づくりの基本方向を明らかにした中期展望図であろう。

加えて、21世紀のさきがけとして取り組んだ活動の記 千年樹(紀)植樹事業記念誌「千年樹」がある。

発刊の言葉の中に「少なくなったみどりを私たちの手で取り戻し、神奈川の21世紀を(みどり回復の世紀)とすることにより、私たちの生活や、動植物を含めた生態系全体をも健全な生き生きとしたものにしていくことを願って、県内各地の植樹や育樹、みどりに親しむ活動で行ったのが千年樹(紀)植樹事業です」とあるのは正に時宜を得ている。

この思いの下、宮ヶ瀬湖畔はじめ5カ所での主要イベント開催とともに、県内各地で45,000人の人々による27,000本の植樹が行われた足跡の書である。新しい世紀に「みどり回復にむけた活動の第一歩」が着実に踏み出されたことは、今だ記憶に新しい。



宮ヶ瀬湖園地の記念碑

2010年3月10日撮影

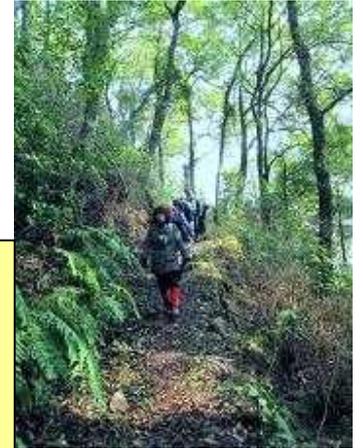
—幕山梅林の花にあわせて—

自然観察部会活動報告



林道てくてく（白銀林道～クスノキ純林～幕山梅林）

杉崎 恒三（10期）



前日、箱根の降雪 30 cm の情報の中で、冬枯れの林道を歩き、幕山の観梅目的に集まった面々。自然観察より、山道歩きを目的の参加者に、自然観察の楽しさや自然保護の大切さを如何に感じてもらうか・・・我々インストラクターの腕の見せどころであり、やりがいです。



雪の中、春を待たせなげな冬芽（裸芽や鱗芽）の佇まい・葉痕の百面相・人工林の管理・林道の役割（恩恵）・間伐材の活用・植物遷移・樹齢 100 年のクスノキ純林・・・等など心を込めての解説でした。努力の甲斐あって、参加者の感想は「今まで、ただ山の空気を吸って景色を眺めて満足していた。観察の楽しさがわかった。」「これからは季節ごとに観る目的を持って歩く楽しみが増した。」「さっそくループを買います。冬芽や葉痕の図鑑も探します。」「森林や樹木のことに興味を持てた。」「・・・等など

思いがけず雪の林道が歩けた事。何もない冬枯れの中、見るとこいばいの監察会で参加者は満足し、感謝をしながら、梅に色と香りが付き始めた梅林の中でそれぞれ班ごとの散会でした。



データ

主催：神奈川県森林協会

茂木、浅野目、水野、

日時：平成 22 年 2 月 19 日（金）

9 時半～15 時

場所：湯河原町宮上ほか

（白銀林道～クスノキ純林～幕山梅林）

参加者：一般県民 37 名（申し込み 69 名）

インストラクター：L 女川、久保、野田、内野、橋本、杉崎、

班分け：1 班 7～8 名の 5 班体制

写真：広報部（鈴木松弘）

## どうぶつシリーズ 4

## やどりき水源林はびっくり箱

滝澤 洋子&lt;5期&gt;

やどりき水源林県民参加のモニタリング調査で、なかなか確認できないモモンガやヤマネの確認の為に巣箱をいろいろな場所に設置し、調査終了後も、森の案内人動物班で継続して観察してきました。巣箱はまさにびっくり箱です。そのびっくり箱のいくつかをご紹介します。

**巣材の中から出てきたものは：**ムササビやモモンガは、巣の材料にスギの樹皮を使います。樹皮といっても、外側の堅いところをめくると出てくる茶色い薄い皮の部分で、それを細く裂いて使っています。新しい巣材はつやつやした色合いで、フワッと巣箱に入っています。巣箱の観察は繁殖に影響がないよう2月頃にしてはいますが、そっと覗いてこのつやつやの巣材が入っていたら利用していると判断し、そのままにしておきます。しかし古くてペタッとつぶれている巣材は回収しています。実はこの回収時がびっくり箱を開ける瞬間でもあるのです。

ある時、いつもと同じスギの樹皮の巣材と判断し、写真だけ撮っておこうと思って良く見ると黒い物体が見えました。恐る恐る巣材を剥いでいくと、まだ毛の生えていないムササビの仔だと思われるのが2頭。すでに少し腐敗が始まっていて、しかも1頭は頭を損傷しています。この仔たちに何があったのでしょうか。狭いモモンガ用巣箱なので、親に押し潰された？まさか。でもこの狭い巣箱で子育てをしようとした事だけは事実のようでした。

また他の巣箱で、やはりつぶれた巣材を回収してカメラに収めていると、何やら小さくコロッとしたものが巣材の中に入っているのに気が付きました。色が目立たず見逃すところでしたが、なんとヤマネでした。薄い板でできた巣箱は寒かったのでしょうか、ここで冬眠しようとして潜り込んだものの、残念ながら冬眠失敗だったようです。

また、なんでこの高さの巣箱に居るのというのが入っていたこともあります。Aコースの巣箱ではモグラが、ウシ口沢の巣箱ではヒミズが入っていました。どちらも巣材の入っていない巣箱の中で死んでいたのですが、これといった外傷は無いように見えました。

いつも地中に居るはずなのに、なんでこんな高い所に。ヒミズは木を登れるらしいと聞いたことはありますが、しかし何者かが巣箱に入れたとも考えられます。では誰が？何のために？

**これがほんとのびっくり箱：**平成20年・21年度成長の森の入口にミツマタの林がありますが、この近くに、ムササビ用とモモンガ用の巣箱を設置しています。これは成長の森を整備する時に、そこに棲むムササビやモモンガの一時避難用に設置したのですが、今も時々利用してくれています。平成21年2月の調査の時には、巣材がいっぱい入っていたので中に居ると考え、覗くのをやめました。でもうっかり巣箱に番号を書き直す作業をしてしまったため、穴から次々と3頭のモモンガが出てきてしまいました。あれ、あれ、あれ。まさにびっくり箱の様でしたが、彼らはもっとびっくりしたでしょうね。

この後、近くに設置したもう一つの巣箱には巣材がなかったので、安心して中を観察しようと梯子を登ったら、先ほどのモモンガの1頭が滑空してきて観察者の頭付近の幹に着陸し、すぐ隣の木へ飛び移りました。「僕たちの家に何を」と必死の抗議をしているようで、またまたごめんなさいでした。ところで、モモンガの兄弟が同じ巣を利用することもあるらしいとのこと。もしかして出てきた3頭は兄弟で、寄り添って寒さをしのいでいたのかもかもしれませんね。



モモンガで～す。こんにちは・・・。

この場所の巣箱はモモンガが顔を出していることが時々あります。本当はもっと良く見たいと思うところですが、彼らが安心して暮らせるよう、そっと見守ってくださるよう成長の森を訪問される方をお願いするとともに、冬は巣箱より暖かいであろう樹洞のある木も大切にしていきたいと思っています。

写真：広報部（鈴木松弘）

## 私の認識

今月はこの連載がスタートして 77 回目となりました。顧みますと、「何か野鳥の事を書いて貰えませんか・・・」と会報「森のなかま」の編集をしている同志からの依頼で、気軽に引き受けて書き始めから約 6 年半です。

語呂合わせの故事付けですが、77 は私達の年齢では「喜寿」と言う節目となり、大変にお目出度い訳です。

そこで、スズメ目ホオジロ科の野鳥の中で幾らかでも喜寿に相応しいと思いついたのが留鳥（漂鳥）のクロジ（漢和名：黒鷗、英名：Japanese Grey Bunting 体長 L = 17 cm）です。

私がビギナーの頃、探鳥会の時のリーダーが「この野鳥は、企業の経営者、商店主そして家計簿を付ける主婦達から、クロジ（黒字）に逢えると言って喜ばれますよ」との説明で、一発で覚えたのがクロジであります。世界地図上でクロジの棲息分布域を看ますと、北はカムチャッカ半島南端から、千島列島、北海道、本州、四国、そして南は



クロジ

九州、沖縄辺りまでと限定された地域のみです。英名で Japanese ~ とあるのも尤もな話だと私は納得しております。因みにホオジロ科で英名に Japanese が付くのが

前々稿の <75> で紹介した日本特産種のノジコ、そして今後に案内する予定のコジュリンの 3 種類のみです。

クロジの活動環境は、下生えの多い山地の暗い林などで、秋冬の非繁殖期には小群で生活し、繁殖期にはササなどの茂った亜高山の林などで、活動するものと認識しております。

広く開けた明るい処を好むホオジロ科の野鳥の中では少し変わった棲み分けをしています。その証拠が体色です。

成鳥の体色は全体が夏羽では灰黒色、冬羽ではそれよりやや淡く黒灰色ですので、暗い林の中では目立たない保護色なのです。また、成鳥は全体に燻すんだ灰褐色で、背面に黒褐色の縦斑のある地味な体色です。従って、落ち葉の散り敷かれた地上に降りていた時には、非常に見付けにくい存在となっています。

採餌はササや草の茂みの中を歩き乍ら草の種子や昆虫類、蜘蛛類などと図鑑にあります。

## 野鳥その 77

高橋 恒通

の囀りは、「ホーイチュチュピー」とか「ピーフィーチーチョーチー」などと発声するそうですが、私は残念乍ら「ああ、これはクロジの囀りだ」とハッキリ確認した経験がありません。

地鳴きは「チチッチッ」とアオジに似た声ですが姿を見ないで声のみでの同定は困難です。

クロジは神奈川県下でも冬期には山地や丘陵地で観察する事ができます。

私の住む伊勢原でも冬場に西富岡の運動公園近傍の里山で何度も観ております。その環境は、アズマネザサとノイバラの混じった緩斜面で、処々に冬枯れのクズの蔦が絡まった場所です。いつも数羽の群れでした。

県下では、真鶴岬、大磯や平塚西部丘陵、二子山、等などで観察されておりますが、地味な体色とうす暗い場所を好むので案外と見付けづらい野鳥と認識しています。

クロジはご案内の如く地味な野鳥ですが、棲息領域から看ても「準日本特産種」と言うべき存在ですし、再び駄洒落で申し訳ありませんが、クロジは黒字に通じる大変に縁起の良い野鳥なのです。

ご愛読の同志の皆さんも是非クロジに興味と関心を持ち続けて頂ければ幸いです。

## &lt; 参考資料 &gt;

日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑 7 写真・解説 / 叶内拓哉、分布図・解説協力 / 安部直哉、解説（なき声） / 上田秀雄、山と渓谷社。

とり、自然ガイド、浜口哲一・文、佐野裕彦・絵、文一総合出版。

日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編・高野伸二、解説・浜口哲一他 山と渓谷社

鳥 630 図鑑、(財)日本鳥類保護連盟

かながわの鳥図鑑、編集 / 日本野鳥の会神奈川支部 発行 / 第 46 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」 神奈川県実行委員会。

写真提供：山本 健一郎氏

環境省・箱根パークボランティア解説員  
全国森林インストラクター

## お詫びと訂正

本誌 3 月号「私の認識」P 4 の左・下から 4 行目、シマアオジの漢和名で鳥青糰の糰（ジ）の字が抜けてましたことをお詫びし訂正します。

## 活動短信

2/7 ~ 3/20

## かながわ森林づくり活動

**日** 2月7日(日) 9時~13時  
**場** 大磯運動公園  
**参** 94名  
**財** 豊丸、永島、**用具** 石鍋 **看** 青木  
**イ** L野牛、菊地、友谷、高崎、相馬、  
 横山、有田、加藤逸、白畑、鈴木昭、  
 松田、渡部、阿部、黒澤、篠原、  
 中島、**研** 4名

寒さも一息ついた穏やかな日だったためか交通の便が良かったためか、一般参加応募101名に対し、94名の参加となる。今回は広葉樹林の手入れ、初めに大磯運動公園の大濱園長から挨拶、その後5班に分かれ、運動公園を囲む丘陵の広葉樹林の笹刈りと除間伐、対象はアオキ、シュロ、ヤツデの3種類と笹。まず、地元の育林隊の方が一部間伐してあった倒木の整理を行い、草刈りと除間伐作業。ボランティア初体験の方は少なく、参加市民の数も多く、11時半頃には終了。昼食後、リーダーによるユニークなミニ講座があり、質問も活発だった。中には、何故、今回アオキが除伐対象なのか、という素朴にして本質的な質問もでた。(記8期 阿部)

## 森林文化部会研修「竹ヒゴ&amp;竹カゴづくり体験」

**日** 2月14日(日)  
**場** やどりき水源林・休憩棟  
**参** L落合、L中元、  
 菊地、井出、米本、武者、白畑、  
 松村俊、内野、水口、後藤、小笠原、  
 上宮田、大橋、柴、  
 昨日降った雪で山は真っ白な雪景色の中、やどりき水源林休憩棟において上級者、初級者に分かれ研修が行われました。初級者は、竹の種類、刃物の扱い方、竹の切り方、割り方、竹の扱い方等基本から指導を受ける事が出来ました。  
 ヒゴ(竹を細く割って削った物)作りは、薄く(0.5ミリぐらい)仕上がるまでになりました。皆、腕をあげました。各自のヒゴで六ッ目の編み方の体験後、用意してくれたヒゴで籠作りに時間を忘れるほど没頭しました。(なかなかの出来栄!!)  
 多くの方々に竹細工の面白さと達成感をお勧めします。(記11期 柴)

## 枝打ち体験とナン作り

**日** 2月20日(土) 晴れ 9時~14時  
**場** 小田原市いこいの森・辻村竹林地奥  
**参** 30名(子供21名・大人9名)  
**小田原森林組合** 佐藤技師  
**イ** L久保寺、横山、白畑、村井、  
 親子(子供は小学生以下)を対象とし『自然の中で気持ち良さを感じてもらい、その中で枝打ちやナン作りにチャレンジし子供たちの好奇心を育てる』が主催者の今回の目的。

午前9時に開催場所の辻村竹林奥の林地に参加者全員が集合する。そこで本日のスケジュール・作業説明と注意点・準備体操など行った後、4班に分かれ枝打ち体験開始。対象木は残土捨て場跡に植栽されたヒノキの幼齢木で、植栽地は平坦であり足場などの危険もなく、子供たちには格好の体験場所。開始直後は幹に接した位置の枝切りは難しそうであったが、慣れるにつれ“出べそ”もなくなり親子協同作業を楽しんでる様子でした。約80分の作業体験は好天のもとケガもなく快適に終了する。場所をいこいの森に移した昼食用のナン作りは、主催者の材料準備とお手伝いスタッフ、参加者親子で進められインストラクターの出番はほとんどありませんでした。ナン生地発酵待ち時間を活用したインストラクターによる森林づくりの話(村井)と、紙芝居『水は森林からやってくる』(白畑)は参加者に熱心に聞いてもらえ、予定通り14時に終了する。

(記7期 久保寺)

## 三の丸小学校枝打ち体験

**日** 2月23日(火) 10時~14時  
**場** 県立21世紀の森  
**参** 児童31名、教師3名、  
**財** 古館、永島、  
**足柄グリーンサービス** 太田、  
**イ** L宮本、飯澤、吉田、  
 1月23日の学校における講話に引き続く活動として「枝打ち、下刈り体験」を指導した。体験現場はTV塔近くの約20年生で、植林後全く手をつけていないと思われる杉林で実施した。したがって最下位の枝も残っているので、子供たちには格好の枝打ち体験現場であった。下刈り体験は小鎌を用いて杉林付近の枯れススキを刈る体験にした。インストラクターは事前に枝打ち、下刈りの意義、作業用具とその使い方と注意事項、枝打ち、下刈りの実演を行った上で子供たちに作業体験をさせた。1時間足らずの作業であったが子供たち全員が熱心に興じ、作業後の林間が明るくなったのに満足していた。枝打ち体験の成果として切り取った枝の杉葉を厚紙にホッチキスで貼り付け土産とした。  
 学校を早朝に発って乗合いバスで大雄山乗換え、内山バス停9時到着。徒歩で駐車場広場に到着後、オリエンテーション、作業現場に向け林道を4~50分登るといふ強行軍でバテタ子供が2、3人いたが現場に着いた後は元気を取り戻した。タイトなスケジュールだったが子供たちには大変良い体験学習だったと思う。(記4期 宮本)

## 神奈川の木を知ろう!! 研修会

**日** 2月24日(水) 晴れ 9時40分~11時  
**場** やどりき水源林  
**参** 約50名  
**主** 神奈川県木材業協同組合連合会  
**イ** L森本、村井、

県内の建築士・設計事務所の方々に、県産木材事情や住宅への利用促進をはかる研修会。当日は、春めいた陽気で、1時間の持ち時間でもあり、B・林道コースのお勧めポイントをご案内し、地産地消・県産材活用も合わせて訴求した。この後、やどりきの貯木場見学や、厚木の(株)市川さんへ行かれる予定とのこと。関係者が各持ち場で、出来るところから森林循環の環に入るべきと思いました。

(記 5期 森本)

「環境を守る～自然と共に暮らす

主役はやっぱりわたしたち～」

**日** 2月26日(金)9時半～13時半 雨時々曇り  
**場** やどりき水源林  
**参** 川崎市立日吉小学校5年生・教師、保護者132名  
**財** 古館、豊丸、  
**イ** L松本、高橋、渡辺、足立、宮本、米山、森本、横山、小野、松山、海野、

指導内容：やどりき水源林について

集会棟前広場で始めの会終了後、L松本から説明。  
**：水源林の働きや仕組みについて**  
 Bコース、林道コースに分かれて紙芝居と雨降り実験装置を使い、水は森からやってくる。(Bコース高橋、林道コース渡辺)・水源涵養機能についての解説(Bコース足立、林道コース森本)

**：自然林と人工林について**

コースを回り自然観察をしながら、自然林と人工林、針葉樹林と広葉樹林、常緑樹と落葉樹などについて、各班担当インストラクターが説明。その他、森林整備の事、杉、桧が何故必要なのか?野生動物について説明。

**申し送り事項**：水源林の紙芝居、雨降り実験装置(水源涵養機能)の活用で事前に学習することで現地での学習に効果的であった。生徒達も理解を深める事が出来たと思う。(記 10期 海野)

パートナー林にて間伐

**日** 3月3日(火)  
**場** やどりき水源林  
**参** (株)鈴廣かまぼこ(鈴和会)8名  
**県** 齊藤  
**イ** L加藤逸、武本

参加者は当初15名であったが、当日参加は8名となった。準備体操から間伐の意味、間伐方法等説明後、鈴廣かまぼこさんのパートナー林に向かった。

現場は厳しい傾斜面であり、前日の雨が沁み込み、足元が悪かった。二人一組にして間伐を始めた。一組1～2本の間伐であったが、運動不足気味の参加者にとってはかなりの運動になったようだ。12時過ぎに鋸の手入れも含め、無事作業終了。

全員で昼食をとっている時にうれしいハプニング。一歳くらいのかもしかの幼獣が現われた。あまり人を恐れず、参加者が間近で写真を撮ることに成功、楽しいお土産になった。(記 7期 武本)

2009年度 森の手入れボランティア

**日** 2009年4月～2010年3月(1年間)  
**場** 観音崎公園 ふれあいの森  
**参** 各回 約15名  
**イ** L久保寺、木島、  
 三浦半島の東端に位置する観音崎公園は日本で最初に洋式燈台が建設され、岩礁海岸に囲まれた丘陵には豊かな照葉樹林が広がっています。観音崎公園では年間を通して森の自然に親しんでいただくために、毎月最終土曜日に地元の皆さんによる森の手入れ活動を行なっています。主な活動内容は、除伐、間伐、園路整備、山腹保護など照葉樹林の整備を行なってきました。また夏休みの楽しみにカブトムシの産卵場所も準備しました。2009年度は11回実施し参加人数は大人と子供合わせて延べ165名程になります。1年を通して参加される方が多い中、都合の良い時のみ1～2回参加の方もおります。東京湾を往来する船舶を眺められる丘の森で、小学低学年生から大人まで広い年齢層の参加者が木を切ったりカントリーヘッジを作って樹林を吹き渡る季節の風を楽しみながらボランティアしています。2010年度は、昆虫探しや木や竹の工作も加えた活動を予定しています。

(記 10期 木島)

「初春の酒匂川松並木と菜の花畑を訪ねて」

**日** 3月20日(土)晴れ 9時～12時  
**場** 大井町金手・開成町吉田島地区  
**財** (財)かながわトラストみどり財団  
**他** 足柄上地区推進協議会事務局

**参** 地元の方々、18名  
**イ** L山崎、白畑、  
 自然観察をしながら、みどりの保全と育成を図ることを目的に実施。参加者は松田町、山北町、大井町、南足柄市内で地元の方々、皆さんリピーターでした。御殿場線上大井駅前に集合。ストレッチ運動をした後、4,5<sup>キロ</sup>のコースに出発。三島神社に立ち寄り、御神木の<ムクの木><ナギの木>の由来を説明。ソメイヨシノ桜が開花してました。

母なる川、酒匂川土手に至り、松並木、菜の花、富士山を眺めながら散策しました。下流の飯泉取水堰とコアジサシの営巣地の説明(平成7年に小田原の鳥になり野鳥の会、小田原市が中心となり保護に乗り出した)解散地の開成町中家村公園では、土手の決壊によって出来た六つの島の由来に



松田山より酒匂川を望む

ついて説明した。

やどりき水源林  
ミニガイド

イベント情報 & ご案内

世界中の哺乳類が大集合

< 編集後記 >

3月のトピックス

3/3の活動短信では元気な姿を見せていたカモシカの赤ちゃんが亡くなりました。水源林での悲しい出来事です。お腹をすかしてでしょうか？ご冥福を祈ります。



4月の水源林

4月からは毎週土日、1日2回、10時と13時に水源林の案内をします。4月の案内のテーマは「萌え木色の世界へ」です。様々な芽吹きの色が楽しめます。この4月から案内をするコースが増えました。第1、3、4土曜は成長の森へご案内します。また、第4日曜は、水源林散策の後、コースター等簡単なクラフト作りを行います。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土、日・午前10時・午後1時より1~2時間程度(冬季休止)  
集合：水源林入口ゲート前  
内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。毎回テーマを決めて、森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料  
\*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255  
fax:045-412-2300

- ホームページ：http://www.ktm.or.jp
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順  
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

化石、はく製、骨格など280点を一挙公開  
この展覧会では、国立科学博物館が秘蔵する「ヨシモトコレクション」を中心とした様々な地域にすむ哺乳類の標本から、その進化、体のしくみやくらしを知ることができます。

2010年は「国際生物多様性年」私たちと同じ仲間、哺乳類を知ること、地球で多様な生き物と一緒に生きていくことの大切さを考えてみませんか？3/13→6/13

お問い合わせ；ハローダイヤル03-5777-8600/  
大哺乳類展で検索/JR上野駅公園口

国立科学博物館 から徒歩5分

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 電子配信希望 >

森 義徳 〒232-0053  
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202  
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛  
045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

< メール・手書き原稿送り先 >

【本誌】村井正孝  
〒226-0002  
横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038  
横浜市青葉区奈良2丁目10-5  
Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i\_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001  
東京都町田市つくし野2-13-7  
Tel/Fax: 042-796-6011  
Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp  
原稿の締切は毎月20日です。

自然体験活動指導者(CONEリーダー)と小学校長期自然体験活動指導者の認定を受けました。子供たちの野外活動を重視する時代に確実に向かっています。勉強して経験を積み、準備していきたいと思えます。(金森)

サクラの開花が始まる。気象庁は開花宣言中止。異常気象が続き暇なし。マグロがまた食べられるようになった。まぐろファンではないが、花見の帰りに回転ずしで、話題のマグロ、ふところをのぞきながら。とかく世間は話題に踊る。(鈴木松)

自宅の近所の桜が咲き始め、いよいよ春の到来です。これからの水源林の変化は見逃せませんね！楽しみです。(森)

近所の森林公園に向かう坂にトウダイグサが生えています。春キャベツのような色合いがパスタにしたら美味しそうですが、有毒植物とは残念！(川森)

今年の春の嵐はすごかったです。ダイチョウも倒れてしまいました。これも地球温暖化の影響でしょうか。夏の豪雨も年々激しさを増しているようです。(井出)

スズメのお宿はどこへ？  
かつてどこでも見かけたスズメが1960年頃に比べ10分の1に激減したと環境省が調査結果をまとめた。4月から国民に呼び掛けスズメの目撃情報を収集するそうです。鹿、熊、ヒル、スズメと仕事がまたふえますね。(村井)

この時期は桜の花のほころび具合も気になりますが、雑木林のコナラやイヌシデの芽吹きははじめた新緑の美しさも楽しみなものの一つです。(鈴木朗)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫(HP) 鈴木松弘、  
金森 巖 森本正信 森 義徳  
鈴木朗 川森健司

「成長の森」事業の参加者を募集しています。



赤ちゃんの誕生を機に、こどもの成長と苗木の成長を重ね合わせ、共に見守りながら森づくりを行います。  
対象：H22年4月1日までに生まれたお子様の家族、親族、応募期間：4月1日~5月31日、参加費：お子様1人あたり3000円(苗木の購入・銘板の作成・設置、通信費などに使用) 応募方法：財団ホームページからの申し込み(http://www.ktm.or.jp)または往復ハガキに申し込み者の〒、住所、氏名(ふりがな)電話番号 お子様の氏名(ふりがな)生年月日を明記し〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20(財)かながわトラストみどり財団 成長の森担当まで\*\*\*\*\*